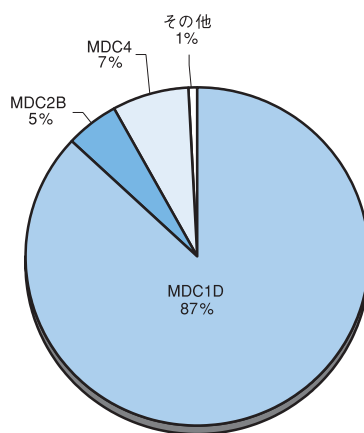


マグネシウム合金ダイカスト

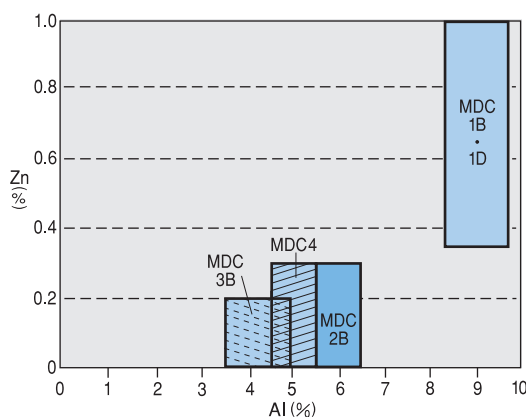
マグネシウム合金ダイカストについては、7種類が日本工業規格JIS H 5303に規定されている。マグネシウム合金ダイカストは、すべてのダイカストの中で、最も軽量で機械加工が容易である。アルミニウム合金ダイカストと比較すると、機械的性質及び単位質量当りの比強度などはほぼ同等である。7種類の合金別生産比率を見ると、Mg-Al-Zn系合金のMDC1Dが最も多く87%を占め、その他の合金は合計で13%である。一般の用途に対しては、MDC1D、MDC1Bが多く使用

され、特殊の用途に対しては、MDC2B、MDC3B、MDC4などの合金が使用される。マグネシウム合金ダイカストの合金成分などを表に示す。

マグネシウム合金ダイカストの選択にあたっては、表に示す合金の化学成分、機械的、物理的性質のみならず、耐食性、鋳造性などの難易及び合金地金のコストを考慮する必要がある。マグネシウム合金ダイカストは、通常JIS H 8651(マグネシウム合金防食処理方法)の参考に示す仮防食処理が施される。



マグネシウム合金ダイカストの合金別生産比率
(2001年 当協会資料による)



主要マグネシウム合金ダイカストの合金元素と組成範囲